

愛媛大學
古典叢刊

6

金葉和詩集

下

伝為家筆本

愛媛
大学

古典叢刊 6

金葉和詩集

下

伝為家筆本

刊行のことは

愛媛大学国語国文学研究室においては、創立以来地方の文学資料についても調査研究を進めてきた。

二十周年を経た今日、県下に埋もれた貴重な文献資料がなお数多くあるので、これを複製刊行し、広く学界の要望に応えることとする。

諸賢のご協力をお願いしたい。

金葉和歌集 下 伝為家筆本

昭和四十六年四月一日 発行

編者 小 泉 道

発行者 愛媛大学 古典叢刊刊行会

印刷所 株式会社 関洋紙店印刷所

松山市湊町七丁目七番地一

790 松山市文京町三

愛媛大学法文学部国語国文学研究室内

発行所 愛媛大学 古典叢刊刊行会

振替・徳島一五三九三

全葉和詩集卷第七

恋部上

五月あかりあそび女あそびあそび

山階院

しるしは袖のきりぎりすあそびあそび

あそびあそびあそびあそび

大紅文書

三五九
(三七三)

一のすゝめくすくすかの
いふふまゝいふまゝいふ

曉窓ともし

神祇伯顯仲

三六〇
(三七四)

さるさるにならうさるさるのねく
さるとさるさるねくさる

つねなるさるさるにほりさる

春宴文々

三六一
(三七五)

さるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさる

頤季所家之應之
藤原頤輔の書

藤原 頌甫 刻

あゝと云くういのれいおまれさ
えうふふゆきやうらふちやれ

女たるつらさ

源雅克

あふみくたひもはな
ふとふとふとふと

從二位藤原親子家直子令小女の

82才

もろ

京源清時

いふをゆめれぬいふをこころに
あはれ人のゆめをいふ

大寺節女

いふやれずのうらなれぬ
かきく袖をのりて

いふを人のかきく
いふを人のかきく

津守國基

三六六
(三八八)

あまのうゑもきりしゆくにきりしゆくに
けふはきりんとちうしきり

題不

読入

三六七
(三八七)

うゑきしきりしきりしきりしきりし
つれきしきりしきりしきりし

三六八
(三八八)

あまのうゑもきりしきりしきりし
あまのうゑもきりしきりし

中細言雅定

三六九
(三八九)

あまのうゑもきりしきりしきりし

はるかに井のほとけのうねく
あふやういふはまの人のうねく
をこそあふのうねあふのうね
あふのうね

春空をふく

はるかに井のほとけのうねく
あふやういふはまの人のうねく

あふのうねあふのうねあふのうね

あふのうね

三七
三八六

そふくはゆきうじあふしきものしん
あふくはゆきうじあふしきものしん

寄水島寒といつちかた

源行俊朝臣

三七
三八七

ふいどわらうけふさつくさふと乃
あふくはゆきうじあふしきものしん

寄夢をといつちかた

佐世衛督家

三七
三八八

ゆきうじあふしきものしん

うひたにつくあらんあつた

題名知

中納言源隆

ししき乃のるやまらとまてて
いゝあはうもあまら

そのそあね恋とまら

源頼國卿

あはれいとそのしれいゝうたれど
あしやうきまらうまら

思案のそまら 中納言實行

(三七六)
(三九一)

(三七七)
(三九二)

(三七八)
(三九三)

きよきつりつにこのついでにわかく
しきつりつに人しきつりつ
月氣をいふ事ともう
藤原基文
なすれいふ人あふれいふた
くもふれあふれ
題名知
読名知
いふれいふれいふれいふれ
いふれいふれいふれいふれ

あの中へ人の前中家へふらふを
れいふをふらふく月のあつちの
いふつらふ

藤原知房の書

はるけいふをふらふく月のあつちの
いふつらふ

こゝろふらふく月のあつちの
いふつらふ

後念

あまのうやうやのうらふりかへ
さういふあまのうらふりかへ
うらふりかへいふさういふ
うらふりかへ

内臣家少進

うらふりかへいふさういふ
うらふりかへいふさういふ

實行は家并合ふさういふ

長安の母

三八二
三九七

あふれぬやまのけしきなり
それおもしろくもなれり

藤原通経

三八三
三九八

あふれぬくはなをさきやあふれど
けしきあふれぬをさきや

少将のまゝ

三八四
三九九

あふれぬやまのけしきなり
それおもしろくもなれり

題名

皇仁天皇御歌

三八五
(四〇〇)

あきつるるの井さくしりく
しきさくしりくしきさく

源頼朝

三八六
(四〇一)

あきつるるの井さくしりく
しきさくしりくしきさく

あきつるるの井さくしりく

源頼朝

三八七
(四〇二)

あきつるるの井さくしりく
しきさくしりくしきさく

左兵衛督實能
いりそまらふくくくくくくくくくく
あえんくくくくくくくくくく

後新康乃やまら

源行宗朝

いりそまらふくくくくくくくくくく
あえんくくくくくくくくくく

堀川院時艷書會より

春宮久々々々